

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和元年 5月24日

事業所名 児童デイサービスばいかじ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			
	2	職員の配置数は適切である	7		規定以上の職員を配置	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		7		現在はバリアフリー化する必要のある児童の在籍が無いために行う必要が無いと考えておりますが、今後必要な児童の受け入れが見込まれる場合は早急に対応する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		7		現在は実施しているとは言えない。今後は定期ミーティングを開催し業務改善に努める。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		7		今回がアンケート形式のヒヤリングが初めてだった為今後は活用し業務改善に努める。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		現在は外部評価を行っていないが、今後は評価頂く機会を設けたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		7		現在までは業務を運営するにあたり、研修に参加させる事が厳しかったが現在は人員が増え積極的に参加させる予定である。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		アセスメントに関しては特に意識し対応しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		7		ヒヤリングを中心にアセスメントは行っていますが、今後はアセスメントシートを作成しどの職員が実施しても適切なアセスメントを実施できる環境を整えます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている		7		職員間のコミュニケーションを密に取り、それぞれにあったプログラムを立案しているが特定の職員に偏った様に感じる。全職員への横展開の定期ミーティングを開催する。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		動の療育、静の療育のバランスを意識している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		7		現在は明確な役割分担を行う事は少なかったため、今後は支援開始前の打ち合わせを行う様にする。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3		必要な事があれば情報共有は行っているが、必ず実施しているわけではないので、遅くとも次回開所日には実施する。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	必要があれば積極的にやっている。		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	保護者も含め緊急時の対応方法を受け入れ前に確認している。		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		7		現在は機会が無いために今後は積極的に研修等に参加する機会を設ける。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7		同一法人の経営する保育園での交流活動	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		口頭での伝達やコミュニケーションを重視している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		7		ペアレントトレーニング等の研修にも積極的に参加し保護者に対しての支援の強化を図る。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	保護者会を開催した事が無いために今後は開催を保護者から要望があれば開催したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		SNSを活用し子ども達の様子を保護者が見れるように発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7	イベントを開催した事が無いため、今後は計画し地域への啓蒙活動も積極的に行う。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		7	口頭での情報共有は行っているが事例集の作成は今後徹底していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		定期的実施しているが、新規雇用職員へは未実施の為、早急に開催する。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。